

小さな不動産会社からはじまった、人、街、笑顔づくりのものがたり

RENOWA

HIDAMARI RENOVATION LIFE STYLE BOOK



536番地物語
ひだまり
観光町

季節の恵みを
最高の洋菓子に。
川東菓子店



HIDAMARI APARTMENT

ここからひだまり物語ははじまった。

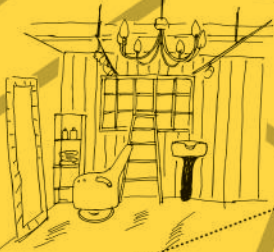


KANKOU-CHO

観光通り 155

Handmade
Billow

南からは美容室。
北からは雑貨屋さん。
仲良し夫婦の TWO SHOP.



まんまカフェ

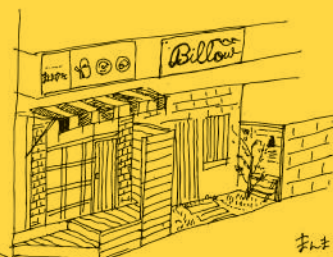
お父さんの淹め
コーヒー
450-



HIDAMARI MARCHE

住民達が始めた
手作りマーケット!

愛媛
産
無農薬
有機
野菜
120
117



お父さんの淹め
日替わりやさしい味です

HIDAMARI OPEN TERRACE



どこから
ともなく
いつの間にか
みんなが集う...

人生に新しい風が吹くとき。

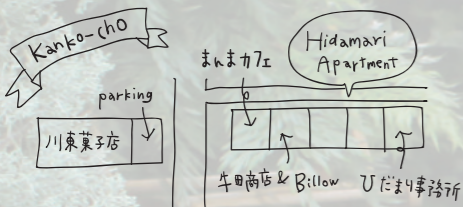
香川県高松市。その中心部からほんの少し歩いたところに、観光町があります。2006年、大通りから入った一画に、内海芳美さん（うっちゃん）が切り盛りする「ひだまり不動産」が開業しました。ひだまりアパートと呼ばれるこの建物から、物語は始まりました。

ほっとする惣菜のランチが食べられるカフェ、クリエイティブな夫婦による異色なスタイルの店舗、オープン間もないのに評判を呼んでいる菓子店——。次々と魅力的な店が誕生しています。

この本に登場するのは、自分の人生に新しい風を吹かせた人々。リノベーションした物件とともに、新たな一歩を踏み出した人たちです。

その風は、波紋のように伝わり、近隣の地区にも広がっていきました。今、この街で起こりつつあるのは、これからの暮らしと仕事のかたちかもしれない。

リノベーションを通じて生まれた「輪」を追って、物語をひもときましょう。



高松市通町155番地



ようこそ、不思議なアパートメントへ。



ちゃんとごはん。家、そのまんま。

2012年1月。ひだまりアパートメントの一室に、小さなお店が生まれました。たくさんの種類のお惣菜が盛り合わせになり、身体にうれしいランチ。上品な器でいただくコーヒーやシフォンケーキ。女性客が9割という人気店には、近所から遠方から、今日もお客さんが絶えません。

この「まんまカフェ」を営むのは、増田憲明さん・知佳さん夫婦。近くの木太町で暮らしながら、栄養士の知佳さんは「いつか自分の店を開きたい」と思っていたそうです。憲明さんの定年退職を機に、本格的な物件探し。知佳さんの友人である空間デザイナー・宮本由美さんの紹介で訪れたのが、ひだまり不動産でした。すると「この事務所の並びに空室があるから」とすぐ内見することに。表通りに面さない物件ながら、ピンと来るものがあったのでしょうか。うっちゃんのバイタリティあふれるオススメもあって、契約が決まりました。

「あのときは、すぐ決めたのかな。内海さんが料理の載ってる雑誌を持って来て『こういうランチを出す店をやってほしい』とオファーされました。普通の大家さんと違って、リノベーションでこういうお店にしましょう、という話が具体的で、それも1つの魅力やと感じたんです」(憲明さん)

新しくするだけではない、プラスアルファの付加価値を付ける空間デザインは、宮本さんが担当しました。

「全部、彼女にお任せです。自宅の家具やカーテンを選んでもらう



こともあって、私の好みがよく分かっています。『ガチャガチャしていない、それでおしゃれ。そんなんやろ?』『そんなん、そんなん!』ってやりとりで大丈夫な信頼感があるんです」(知佳さん)

気ごろの知れた仲で進んだリノベーション。ひと言にすると“大人かわいい”イメージになったと語る知佳さん。ほっとする日常と、わざわざ出かけた非日常、そのバランスが絶妙です。半歩オシャレなよそいき、だから気張らずにリラックス。居心地のさじ加減が多くのリピーターを呼んでいます。



お茶とごはん
まんまカフェ

香川県高松市観光町536-1 ひだまりアパートメント01号室
営業時間 8:30~18:00、日曜・月曜定休
TEL. 087-873-2390
<http://mammacafe.seesaa.net>



Hair & Make Billow Takamatsu

同じ号室の中にある、2つの店。

まんまカフェの隣り、2014年3月にオープンしたお店には入口が2つあります。丸亀市でそれぞれのお店を営んでいた夫婦。1年前から高松進出を考え、たどり着いたのがこの物件でした。

北側から入ると、恵理さんのセレクトショップ「牛田商店」。アメリカの鏡、フランスのレディース服、小豆島産オリーブのエキストラバージンオイルなど、国内外で買った雑貨やアパレル、アンティークが木の温もりがある素朴な空間に並びます。「雑貨は必需品ではないけれど、生活にあると気持ちが豊かになるもの。幅広い年齢層に楽しんでもらえる、いろんな商品を集めるように心がけています」と恵理さん。お客さんが楽しめる店づくりでは、ホワイトテリアのマルちゃんが店長役です。壁は工事現場からもらってきた足場板を自ら塗って仕上げました。

南側からは、Dukeさんによる1日1組、完全予約制の美容室「Billow」へ。海のモチーフを使った、まっ白な空間を手づくりしまし

た。バーカウンターもある隠れ家的な店。カット席からシャンプー台へ座ったまま移動できる椅子など什器もユニークです。こうした家具や照明などをすべて販売しています。「どんどん内装は変えます。久しぶりに来たお客さんから『イメージ変わったね』と言われたいからです」と語るDukeさん、店づくりを通じた実験を続けるつもりです。

ひだまり不動産の名前を美容業界で聞いていたDukeさんが、ホームページを見て「まずは事務所に行ってみよう」と連絡したところ、たまたま並びに空きが出たばかり。第一印象は「東京の表参道あたりにある古いアパートのイメージ」（恵理さん）。これまで長いキャリアのある二人、今回は人がわざわざ訪ねて来てくれる店が思い浮かびました。すぐ気に入って設計プランを考え始めたそうです。

中央を窓のついた壁で仕切り、2つの店を行き来できる間取り。互いの価値観を尊重しあい、付かず離れずの距離で見つめあう。そんな夫婦のいい関係が伝わってくるリノベーションです。



牛田商店

香川県高松市観光町536番地
ひだまりアパートメント02号室
営業時間 12時～18時、月曜定休(不定休あり)
TEL. 087-802-2007
<http://www.ushida-store.com>



営業時間 平日11時～24時(21時受付終了)
土日祝10時～19時(19時受付終了)
月・第1日曜・第3日曜定休(完全予約制)
TEL. 087-802-2022
<http://www.hairmake-billow.com>

それぞれ、わが道を歩むふたり。



40年後も、ここに立つ姿を想像しながら…



もっともっと、お菓子の美味しさを求めて。

2013年12月。ひだまりアパートメントのはす向かいに、一軒家を改装した洋菓子店が生まれました。開店して半年で、遠方からも口コミでお客さんが駆けつけます。一番人気は「ミルフィーユ」、手づくりパイとカスタードクリームが自慢です。ヘーゼルナッツの香りと触感が楽しめる「ノアゼッティータ」にも多くのファンがいます。派手さはないけれど、古めかしくもない。旬の素材の良さを生かしたお菓子です。

この住宅兼店舗も、ひだまり不動産が仲介した物件でした。^{かわひがし}川東清樹さんは、50個のフィナンシェを焼く手を休めることなく語ります。「最初はわかりやすい場所にしようと思いついて探していたんです。いい条件のところがあったのですが、先約で売れてしまいました。扱っている不動産屋がひだまりさんだったので、他にいいものがないかと会いに行きました。条件とは違うけど『ここがいい、ここしかないです』と薦められ、それが自分のタイミングだと感じたんです」

決め手はうっちゃんの人柄。「ここから一緒にやっぴいこう、楽しませようという感じが内海さんからしました。同じ方向を向いている人

とやれば楽しいですから」。店舗デザインは宮本さん。扉、壁紙、ケーキのショーケース、ところどころに和のテイストが盛り込まれているのは、川東さんがパティシエよりは「菓子職人」を自負するから。調理台の上の照明器具など、無国籍風の家具がアクセントにあしらわれています。

娘の晴菜ちゃんが6月に生まれたばかり。奥さんの弘子さんが店に立つまでは朝5時から仕事を始め、1人で張り切る川東さん。「まだまだなので、もっと味を掘り下げたい。今33歳だからあと40年は現役でできる。その頃は今から想像できんくらいのお菓子をつくっとるやろな。言うのは簡単ですけどね」

熟練の菓子職人を目指して、これからとも歩む空間は、静かな情熱を放っています。



川 東 菓 子 店

PÂTISSERIE
KAWAHIGASHI

香川県高松市観光町534-5
営業時間 10時～19時、水曜定休
TEL. 087-802-3399
<http://kawahigashi.seesaa.net>



人と人の出会いを生むオフィス。



交流することで、仕事の幅を広げられる。

R-HIDAMARI SHIOGAMI、toucaの上へ階段で上がると、ワークスペース「gain-Y (ガイニー)」の玄関が現れます。重厚なイメージの黒い扉を開けると、広がるのは開放的なオフィス。ブースで区切られたシェアオフィスとは違って、自由に席に座れるフリーアドレス制を採用。集中して仕事したい人は窓側の席へ。リラックスして仕事できるのが、電源付きの中央の大テーブル。これはリノベーションを担当した高橋さんのデザインによる、オリジナル家具です。

gain-Yを主宰するコミュニティ・マネージャーは、風呂めぐみさん。2012年10月にこの場所を起ち上げました。16年の会社員生活では、総務や人事を担当。「ある人材が適所にハマったとき、その人が生き生きして歯車が回っていく感覚がありました。そんな経験があって、いつか自分から人に関わる仕事がしたいと思っていました」誕生のきっかけは、友人の紹介で知り合ったコーチング・ファシリテーターの谷 益美さんが、風呂さんとひだまり不動産をつないだ縁から。風呂さんはうっちゃんと同じ香川県東部で育ったこともわかり、強い信頼を寄せています。

正会員は20名で男女比は半々くらい。風呂さんはリノベーション

で最もこだわった「プレゼンボックス」を見ながら説明します。「この棚は会員さんが自己紹介するための仕掛けです。税理士、ウェブデザイナー、ウェブディレクター、プログラマー、アプリ開発者、カメラマン、アートディレクター、コーチング、ライターなど、それぞれの仕事わかります。自営業者が多いですが、会社員もいますね。ある人は会社から独立してイラストレーターになりました」

収納カウンセラーの岸上奈美さんは、地元のリビング紙を見てgain-Yを知りました。利用は週1回のペース。「家で仕事をすると、家事などで気が散ってしまうことがあります。頭がモヤモヤして仕事が進まないとき、ここに来て利用者の人たちと話す新しい発見があるんです。私にとっては集中するよりも、お話をしているんな情報が得られる場所です」

仕事への意識を高めるシャープさと居心地の良さがミックスされた、この空間。2年目の現在は、会員同士で仕事を依頼する内部プロジェクトが数件進んでいます。3年目は外部からのオファーを受け、会員がチームを組んで動くのを目標に掲げています。



香川県高松市塩上町3-16-9
R-HIDAMARI SHIOGAMI 2F
営業時間 10時～21時(ドロップイン利用は17時まで)、無休
TEL. 087-802-1512
<http://gain-y.com>



モノを大切に使う文化を広めたい。



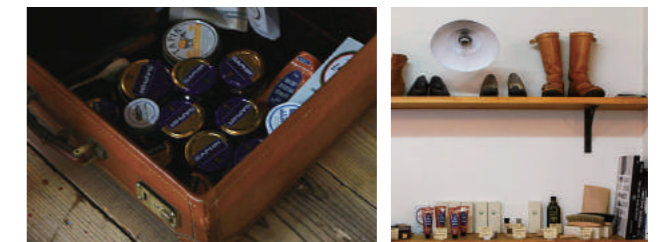
靴修理職人である千葉出身の星出雅澄さんと、愛媛出身のちひろさん夫妻は、2013年6月に東京から高松へ移住しました。いつか東京を離れたと思っていた二人は、結婚して互いの仕事が一と区切りついたのを機に、どの街で生活するか検討しました。お客さんが見込める街に近く、瀬戸内海の雰囲気にも惹かれたのが高松。独立して店を構えるため、インターネットで店舗と住宅の物件を探したところ、ひだまり不動産のサイトを見つけました。

現地で内見したのは、ひだまりアパートメント松島。まだ改装前の解体工事が始まったばかりでした。「何もない状態から移住先の住まいを決められたのは、でき上がりが想像できたから。ネットでひだまりさんの物件を見たときから、会社がやりたいことのコセプトをハッキリ感じたんです」(ちひろさん)。「デザイナーの高橋さんにも会ってどんな部屋になるかを聞き、あとは東京で完成を待つだけでした」(雅澄さん)。2カ月後、夫婦は愛車のバイク(トライアンフ)とともに高松へやって来ます。

開業準備をしながらスタートした新しい暮らし。ある程度の広さが必要で機械の大きな作業音も出る仕事のため、店舗探しは難航しましたが、ひだまり不動産経由で今の場所が見つかりました。「うちちゃんはやりたいことに正直。思っているもできない人が多いので、それをどんどん実現するパワーがすごいです」とちひろさん。

7月に決まった物件は、床と備え付けの棚がイメージ通りだったため、ほぼ手を加えることなく機械を搬入。9月末に「SPHERES GATE(スフィアーズ・ゲート)」が無事にオープンを迎えました。メインは靴の修繕で、カスタム加工のほか鞆やベルトの革小物も扱います。「亀のような歩みですが、お客さんが徐々に増えています。近所のタクシー会社の運転手さんも何人か利用してもらいました」とご近所を語る雅澄さん。ちひろさんは、店から2軒先にある「弁天餅」のファン。花の水やりで挨拶を交わす関係になりました。

午前中にお弁当をつくり、10時から11時ごろ出勤。「オープン直後と閉店まぎわにお客さんが多い」というお店に20時まで詰めています。「やってみて驚いたのは客層が幅広いこと。手のひらサイズの靴



から、お婆ちゃんの靴まで修理しました」とちひろさん。服飾学校出身の彼女は、自宅のミシンで舞台衣装を手がけることもあります。

修理で劇的に靴が生まれ変わるのを、若い世代にも一度は体験してほしいという二人。「靴は使い始めより、長年使ってきたものの方がその人の雰囲気が出るもの。シワや傷さえ、いい表情になることが多いですね。ちゃんとした靴は修理しながら使えるようにつくられていますから、使い捨てではなくモノを大切に考える考えが浸透してほしいです」(雅澄さん)

確かな腕が信頼されて、全国から修理の依頼を受けるSPHERES GATE。高松からモノを大切に使う文化を発信しています。



SPHERES GATE
Quality Shoe Repair

香川県高松市福岡町1-12-5
営業時間 12時～20時、水曜定休
TEL. 087-805-6357 mail. spheressgate@gmail.com
http://www.spheres-gate.com